

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成30年4月26日(2018.4.26)

【公開番号】特開2017-199031(P2017-199031A)

【公開日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2017-042

【出願番号】特願2017-146821(P2017-146821)

【国際特許分類】

G 02 B 13/24 (2006.01)

G 02 B 13/14 (2006.01)

G 02 B 13/18 (2006.01)

G 02 B 17/08 (2006.01)

G 03 F 7/20 (2006.01)

【F I】

G 02 B 13/24

G 02 B 13/14

G 02 B 13/18

G 02 B 17/08 A

G 03 F 7/20 5 2 1

G 03 F 7/20 5 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月15日(2018.3.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

投影対物器械の物体面に配置された物体視野から該投影対物器械の像面に配置された像視野上にパターンを結像するための反射屈折投影対物器械であって、

物体面からのパターンを第1の中間像内に結像させるように構成され、第1の瞳表面を有する第1の対物器械部と、

前記第1の中間像を第2の中間像内に結像させるように構成され、前記第1の瞳表面と光学的に共役な第2の瞳表面を有する第2の対物器械部と、

前記第2の中間像を像面内に結像させるように構成され、前記第1及び第2の瞳表面と光学的に共役な第3の瞳表面を有する第3の対物器械部と、

前記第1、第2、及び第3の瞳表面のうちの1つに又はその近くに位置決めされた反射瞳ミラー表面を有する瞳ミラーと、

前記瞳ミラーに作動的に接続され、前記瞳ミラー表面の形状を変更するように構成された瞳ミラーマニピュレータと、

を含み、

必要に応じて開口の直径を調節するように構成された開口絞りを有し、該開口絞りの該開口の最大直径は、前記瞳ミラーの直径D_{PM}の少なくとも2倍大きいことを特徴とする投影対物器械。